

## 平成25年度第1回流山市史編さん審議会会議録

1 日時 平成25年12月20日（金）

午後1時30分から午後3時30分まで

2 場所 文化会館第6会議室

3 出席者等

（審議会委員）

小川浩会長 相原正義副会長 大出俊幸委員

下津谷達男委員 堀部昭夫委員 山田友治委員

欠席：小疇尚委員 清藤一順委員 村田一二委員

（事務局）

直井生涯学習部長 小川図書・博物館長

須田図書・博物館次長 小栗図書・博物館次長兼学芸係長 川根

主任学芸員

廣瀬臨時職員 堀野臨時職員 橋本臨時職員

欠席：後田教育長

（傍聴者）

なし

4 議題

（1）平成25年度上半期流山市史編さん事業実績について

（2）「第4章 江戸幕府と流山」の原稿について

（須田次長）

本日は大変お忙しい中、お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

ただいまから、平成25年度第1回流山市史編さん審議会を開催いたします。

本日、司会進行をさせていただきます、図書・博物館次長の須田でございます。よろしく願いいたします。

会議に入ります前に、本審議会は平成25年度になって初めての会議

開催になりますので、図書・博物館長から職員の紹介をさせていただきます。

(小川館長)

職員紹介

(須田次長)

会議の開催に先立ちまして、本日配布している資料を確認させていただきます。

まず、会議次第及び会議資料1部と委員名簿1部を、お手元に配布させていただきます。また、先に『ふるさと流山のあゆみ』「第4章江戸幕府と流山」の原稿を郵送させていただきましたが、お持ちでない方はいらっしゃいますでしょうか。

また、その他の資料として市民参加条例の抜粋を配布しております。

それでは、次第に添って進行させていただきます。流山市教育委員会生涯学習部直井部長から御挨拶を申し上げます。部長よろしくお願いたします。

(直井部長)

本日は公務御多忙の中、平成25年度第1回流山市史編さん審議会に御出席をいただき、有難うございます。

本来であれば、教育長から御挨拶を申し上げるところでございますが、教育長は本日所要で欠席させていただきます。代わりまして、私から御挨拶を申し上げます。

日ごろ委員の皆様方には、本市の教育行政はもとより、市政全般にわたり多大なる御協力をいただき、感謝申し上げます。

皆様には、市史編さん審議会委員という重要な任務を担っていただいております。今年は小林一茶生誕250年、新選組結成150年、来年はみりん200年という年にあたり、市民の皆様が郷土の歴史に関心をもつ機会と考えております。

また、広報ながれやまの元旦号では4頁をさいて白みりんの特集号を組む予定になっています。

本日の会議でございますが、議題の二つ目といたしまして、『ふるさと流山のあゆみ』の「第4章江戸幕府と流山」について御審議いただきませんが、研究書として内容を充実させるのと同時に、読んで楽しんでいただける書となるよう考えていますので、委員の皆様方に充分御審議いただき、御意見を賜りたいと考えております。

(須田次長)

ありがとうございました。続きまして、会長から御挨拶を頂戴いたします。会長よろしく願いいたします。

(小川会長)

昨日から急に寒くなりました。22日は冬至ですが、風呂に浮かべ、食べるために、ゆずを午前中に収穫してきました。師走を感じています。最近はクリスマスに追いやられていますが、伝統的な行事もまた大切にしたいと思います。

今日は『ふるさと流山のあゆみ』「第4章江戸幕府と流山」の原稿ができましたので、皆様方から忌憚のない御意見をいただき、より良いものに仕上げていきたいと思っております。

(須田次長)

ありがとうございました。「流山市史編さん審議会条例」第6条第1項の規程によりまして、会議の議長は会長に務めていただく事となっておりますので、ここからは会長に進行をお願いいたします。

(小川会長)

議事進行に先立ち、事務局に出席委員数の報告を求めます。

(小川館長)

本日の会議につきましては、委員9名のところ6名の御出席を頂いており、半数を超えていますので、「流山市史編さん審議会条例」第6条第2項により会議が成立している事を報告いたします。なお、欠席している小疇委員、清藤委員、村田委員から原稿について意見をいただいておりますので、後ほど担当から報告させていただきます。

(小川会長)

会議成立ということですので、次第により議事を進行させていただきます。

議題(1)平成25年度上半期流山市史編さん事業実績について、事務局から説明願います。

(小川館長)

資料に基づいて説明いたします。

まず、(1)古文書講座でございますが、主に初心者を対象として開催し、1回目は古文書の形態や解読方法などの基礎を学習し、2回目からは市内に所在する狼家文書「五人組御改帳」を解読いたしました。参加者数は資料のとおりでございます。講師は東京工芸大学芸術学部海老原慶法先生にお願いいたしました。

(2)史料の収集・保管でございますが、流山市中に所在する中山誠一家文書25点、流山に所在する吉場豊晃家文書14点及び西深井に所在する安蒜義郎家文書61点の寄贈を受けて収集・保管し、目録の整理を完了いたしました。

(3)史料の整理でございますが、平成24年度に収集した名都借に所在する海老原久雄家文書80点について、目録の整理を完了いたしました。また、平成25年2月に受贈した三輪野山に所在する中村剛家文書2,250点について、現在目録を整理中でございます。

(4)史料の解読でございますが、流山市思井に所在する恩田家文書9,125点のうち187点について解読を行いました。解読済は計1,940点になります。以上でございます。

次に、大きな2番目として『ふるさと流山のあゆみ』「第4章 江戸幕府と流山」の原稿が整ったので、御審議をよろしくお願いいたします。

(小川会長)

只今、事務局から説明のありました、平成25年度上半期流山市史編さん事業実績について、御意見のある方はいらっしゃいますか。

(小川会長)

古文書講座は連続しての受講ですか。資料はそれぞれ別の資料を使ったのですか。

(小川館長)

連続しての受講です。

(小川会長)

連続してとのことですが、やはり回を重ねるごとに人数は減るのですね。

(小川会長)

最近、近世文書を読む会は多くの所で実施されているが、近現代となると近世より難しくなります。漢文や仮名まじりが原因となっているが、近現代の文書についても少しずつ準備していただくと、市民の方にとって良いのではないのでしょうか。それは金石文の解読にもつながるので、今後は留意していただきたい。

(小川館長)

提言をいただき、今後は博物館の事業展開の中で、前向きに研究していきます。

(小川会長)

他に御意見のある方はいらっしゃいますか。無いようですので、次の議題に移ります。

議題(2)「第4章 江戸幕府と流山」の原稿について、事務局から説明を願います。

(小川館長)

まず私から『ふるさと流山のあゆみ』の全体的な計画について、説明いたします。

ふるさと流山のあゆみの原稿については、平成24・25年度に御審議いただいておりますが、平成26年度に刊行する予定です。

構成は1章から7章で、1・2章は来年度の審議、3章は審議済、4章は本日、5章は前回済、6章は次回、7章は平成26年度に御審議いただいて、刊行に結び付けていきたいと考えています。

(川根主任学芸員)

それでは「第4章 江戸幕府と流山」の原稿について、御説明申し上げます。執筆者は博物館臨時職員の廣瀬早苗でございます。

「1 流山の村落」「2 川と流山と河岸」「3 小金牧―幕府直営牧場―」「4 御鷹場」「5 治安の悪化と幕末の動乱」の5つの項目と、「長福寺と熊野堂」「高瀬船―国内最大級の川船」「幕府の牧改革―岩本大明神―」「郷鳥見・庄左衛門」「鷹の獲物は贈答品」「安政大地震―古文書からわかる災害―」「武術英名録―流山の剣術家たち―」という7つのコラムから成っております。本文とコラムを合わせまして、44頁でございます。

内容でございますが、流山が発展する基となった河岸と、江戸時代を通して存在した小金牧、御鷹場について焦点を当てたものとなっております。

第5章と同様、版組は仕上がりの体裁になっておりますが、写真や図版は仮挿入であり、今後図版の作成を進める予定でおります。

御審議をよろしくお願いいたします。

(小川会長)

只今、事務局から説明のありました「第4章 江戸幕府と流山」の原稿について、御意見のある方はいらっしゃいますか。

《以下、指摘事項箇条書き》

(大出委員)

- ・ 定価と部数
- ・ 販売は博物館だけか一般書店でも扱うのか

(小川館長)

- ・ 部数は700部作成

・ 予算は一部 1, 370 円 × 700 部 × 1.08 で 1, 035, 720 円を計上している

- ・ 300 部は関係機関に配布し、400 部を販売する
- ・ 従前の刊行物同様、図書・博物館でのみ販売する

(大出委員)

- ・ 400 部を販売するが、どの程度売れば良いと考えているか
- ・ 印刷に係った経費は、売り上げで埋めるという考えではないのか

(小川館長)

- ・ 400 部を販売するが単年度で完売するとは考えていない
- ・ 完売した場合には、必要に応じて再刊することもある
- ・ これまでの刊行物も同様である

(大出委員)

- ・ 先の質問は、内容に関係してくる
- ・ 一般書店で販売するのであれば、より売れる中味とする必要がある
- ・ 装丁、校正、原稿料、印税などはどう考えるか
- ・ 著作権の問題、著作者の意向などいろいろな問題を含んでいるが、執筆者との契約はどうなっているか

(川根主任学芸員)

- ・ 執筆者は職務によって執筆を行っているので、契約はしていない

(大出委員)

- ・ 校正は外部に依頼するのか

(川根主任学芸員)

- ・ 校正は 1 回目は執筆者、2・3 回目は事務局で行う
- ・ 外部への委託は原稿が出そろった段階で検討する
- ・ 予算は印刷製本費のみの計上である

(大出委員)

- ・著作権についてはどこの市町村にも言えるがきちんとしないといけない、市史の刊行で山形さんと著作権の関係でもめた一件もある
- ・職員が執筆したとしても著作権については明確にしておくべき、電子出版、ITが発展していくことを考えれば特に
- ・作るだけなら中身が正しければ良い
- ・売るための本ならば、おもしろく、やさしく、もっと深く

(小川館長)

- ・著作権に関しては今後の課題とする
- ・校正は編集委員会を組織し、刊行に向けたい

(小川会長)

私も契約をしないで市史研究に投稿したりすることがあります。のちに自分で著作集を作りたい時どうするかということがあります。豊島区、千葉県あたりでは事前に承諾を得ればどうぞ、というように役所は甘い。歴博は原稿を依頼したときに取り決めがあり、三年間は掲載しない、三年間以降は結構です、というようにきちんとしている。非常に重要なことです。

若い職員によって執筆されているこの本に対して、我々委員が修正を要請している、この場合の著作権はどうなりますか。

(大出委員)

- ・われわれが意見を言い、執筆者がそれを採用して手直しするかどうかは執筆者の責任であり、著作権は執筆者にある
- ・校正は、1回はプロに頼むべきで、校正を甘くみてはいけない
- ・友の会の刊行物等も誤植だらけであり、言葉のプロに頼むべき、流山から発信すれば他市町村も真似ていくはず

(小川会長)

我々は自由に意見して良いということになります。校正の件は予算の関係もありますから今後の検討事項にしてください。

それでは内容について各委員から御意見どうぞ。



(下津谷委員)

平成26年度刊行ということになると忙しいですよ。

(大出委員)

平成27年3月刊行ということになりますか。

(下津谷委員)

時間がないですね。

(小川会長)

平成26年度予算ですから。

(大出先生)

執筆者の力量ということになります。

《以下、指摘事項箇条書き》

(小川会長)

- ・平坦すぎ 突き詰めるところは突き詰めて
- ・農民の生活が全く書かれていない
- ・郷土、当時の人がどのような生活をしていたかという視点も入れて、吉野家文書から取り入れられる
- ・新田開発は良い

(下津谷委員)

- ・どの年代を対象にしているのか、中高生対象だと内容が難しい
- ・内容は読みやすいが中学生にはかなり難しい印象を受ける

(大出委員)

- ・700部作って300部無料配布、400部をどれくらいの中学生が読むか
- ・その点が明確になれば読みやすさ、強弱、おもしろさ等が配慮されるはず

(小川会長)

- ・総合学習の時の資料として活用できるようなものでどうか
- ・視点が明確な部分とそうでない部分がある
- ・我孫子市史通史編の小金牧を書くときに流山の野馬土手に関する資料を使ったぐらい流山には資料が多くある、もっと掘り下げられるだろう

(相原委員)

- ・書き出すと、内容というのはレベルが上がってしまいやすい
- ・用語を補うようにすべきだが、スペース的に難しいか
- ・江戸時代を支えたのは農民であり、土地所有・耕地面積等がどうなっているのかみえてこない

(小川会長)

- ・岩波のジュニア文庫が大学生で調度よい、低学年の子どもにも理解させるのはかなり難しい
- ・用語はしっかり説明し、高校生ぐらいを対象にした方が早く進むだろう

(小川会長)

欠席委員から何か指摘事項はありましたか。

(川根主任学芸員)

本日欠席しております小疇委員・清藤委員・村田委員から第4章「江戸幕府と流山」の原稿について指摘事項が届けられておりますので、報告いたします。

《以下、指摘事項簡条書き》

(小疇委員)

- ・全体の記述内容については良い
- ・6頁上段、新田開発の項、「柏市との市境は凸凹（でこぼこ）の形をしています」→「柏市との市境は図1のように複雑に入り組んでいます。」
- ・8頁下段、中ほど、「一方、利根川から分水する形となった太日川（この主語に対して）は、庄内領周辺の洪水対策のため、関宿から野田あたりまでの下総台地を掘削、低地から台地へと流路を固定したことにより、

耕作地帯が拡がりました。」→分かりにくい

- ・ 1 2 頁上段、6 行目、「下総台地と江戸川の間低地は傾斜が少なく」→「傾斜が小さく」
- ・ 1 2 頁下段、後ろから 4 行目、「人足免除の訴訟を起こしています。大工事のため」→「しかし、大工事のため」
- ・ 1 3 頁下段、3 行目、「しかし自然の傾斜に頼る坂川の水害はなくならず」→傾斜に頼るのは坂川の流れてあって、水害ではない、分かりにくい
- ・ 1 8 頁下段、4 行目、4 0 7 人は延べか
- ・ 2 2 頁上段、最後の行、「しかし雨天は中止されるため」→「しかし雨天の時には中止されるため」
- ・ 2 4 頁上段、後ろから 4 行目、「嘉永期にはさらに」→「嘉永期には鹿の数はさらに」
- ・ 2 6 頁、コラム 1 6 上段、後ろから 3 行目、「1 7 9 3 から 3 年後には 2, 0 8 9 匹増えて」→「3 年後には馬の数は 2, 0 8 9 匹」

(清藤委員)

- ・ 全体の内容については専門外なので意見を差し控える
- ・ 9 頁・3 5 頁・3 9 頁の図は縮小しすぎていて分からないので検討して欲しい

(川根主任学芸員)

- ・ 図については、まだ仮に挿入したものなので、分かり易い図を作成する

(村田委員)

- ・ 2 頁上段、4 行目、「十里四方」についてどういう意味でどのようなことのある地域なのか→説明を加える
- ・ 6 頁下段、後ろから 2 行目、持添新田→ルビをふる
- ・ 9 頁、図、図や文字が小さくて読めない
- ・ 1 3 頁上段、1 行目、「渡辺庄左衛門です。」の次、充房とあるがルビはないのか→読み方が不明
- ・ 2 9 頁下段、4 行目、徳川光圀のルビは→みつくにのルビをふる

- ・同じく29頁下段、8行目、「7日 水戸家狩場に將軍から鷹2据（キョ・すえる）」→据のルビ
- ・31頁下段、最後尾、「ちなみに馬は一匹当たり42日分の御用勤めを果たしていた計算になります」意味が分からない→修正する
- ・34頁、図、図の下のキャプション、村名が書いてあるが流山市内と市外がはっきり分かるような記述にしたほうが良い
- ・35頁下段、後ろから4行目、「異なる役割」とあるがどんな役割か
- ・36頁上段、後ろから8行目、「結果」→「その結果」他にも例あり

(川根主任学芸員)

- ・欠席委員の指摘事項の概要は以上のとおり

(小川会長)

- ・他に何か

(山田委員)

- ・農民の生活が見えてこないのは「江戸幕府と流山」という章のタイトルに原因があるのではないか

(小川会長)

- ・私も同意見、「幕府」をとってしまえば良いか

(山田委員)

- ・「幕府」にとらわれ過ぎかと

(小川会長)

- ・8頁「利根川東遷と江戸川開削」ボリュームあり過ぎ、流山の河岸の位置づけを考えて書き換えた方が流山が見えてくる
- ・12頁、「坂川改修」は良い
- ・資料があるので「牧」膨らませて
- ・26頁下段、後ろから3行目、「このほか、野田市船形にも…」→たくさんある、柏にもある
- ・「岩本石見守感恩塔」、なぜ建てられたのかもっと掘り下げたほうがよ

い

(下津谷委員)

・ 26 頁上段、後ろから 3 行目、「二〇八九疋増えて…」で馬を数えるのに「疋」と使うのは何故か、「頭」で良いのではないか

(小川会長)

・ この辺が大出委員が言っている、プロの校正に依頼するかどうかということに関してくる  
・ 資料に忠実にするのか、現代的にするのか

(大出委員)

・ 農民の生活が書かれていないとあったが、難しいのではないか  
・ 読者が気になるころはお金の部分、どのくらいで農民は生活できていたのか、もっと上の位の人たちはどのようなようであったか、何両と書かれていても今のお金に換算してもらわなければ解らない  
・ お金の価値は諸説があつてばらばら、執筆者の見解を添えて換算すればよい  
・ お金が基準になって、地主なのか小作なのか等書かれていけば村の構造、生活がみえてくるのでは

(小川会長)

・ 資料はある、野田の「岡田家文書」などで実際に生活した人々の様子は分かる

(相原委員)

・ 日銀が「両」について金の含有量を基準として出したものがある、これは今では通じない、通じないが「これによれば」ということで寛永通宝は 15 グラム、元禄小判は 10 グラムとある、また毎日の新聞では金がいり入れ 4500 円とか 4300 円と出る、というように一つの尺度を提示しているが江戸時代と現代の換算は非常に難しい

(大出委員)

- ・米で納得させるしかない

(相原委員)

- ・布施から流山河岸まで運んでいくらか、それはこれによるとこれぐらいだということをどこかで出しておくとい

(小川会長)

- ・二駄は米俵で何俵、というような解釈も必要、表にしても良い

(大出委員)

- ・文芸の部分が少なすぎる、俳句の世界では、芭蕉・一茶・蕪村・子規だと思うが、そのうちの一人である一茶が流山にきているわけであり、双樹と両吟もあり、そのような文化があったことを書いて欲しい

(小川会長)

- ・一つの項目で独立させて良い
- ・みりんにもつながってくる

(堀部委員)

- ・15頁に、一茶が流山で読んだ俳句があるというが、どのような俳句か

(大出委員)

- ・馬の俳句はある

(小川館長)

- ・俳句を入れて紹介したほうが良いと思う

(相原委員)

- ・向小金、一里塚あたりで詠んだといわれる俳句があるが、この場所は特定できない、小金牧にはこのような俳句があるとすれば良いか

(大出委員)

- ・コラムでも良いので、一茶をもっと書いて欲しい

(下津谷委員)

- ・ルビがあったり、なかったりするが

(川根主任学芸員)

- ・人名で、読み方が分からないものがある

(相原委員)

- ・地名で大青田は「おおだ」なのか「おおあおた」なのか
- ・西新田は「にししんでん」なのか「にしんでん」なのか
- ・江戸時代で表記するのか、現代で表記するのか

(大出委員)

- ・そういう問題を含めて、校正のプロの世界では決まりがある、一度聞いたほうが良い

(相原委員)

- ・12頁、坂川の主流の問題は小疇委員に確認したかった
- ・坂川の主流は流山では運動公園とするが、松戸では富士川が主流
- ・地形的には富士川が主流で、富士川源流から坂川の接点までは4650m、接点から運動公園の下までは2100mである
- ・川の本流は地形的には低いほうをとり、長さをとる、とすれば坂川の主流は富士川ではないか、小疇委員に判断願いたい

(川根主任学芸員)

- ・小疇委員から12頁について指摘いただいているが、坂川の主流については特にふれていない

(相原委員)

- ・坂川については、流山では運動公園を源流としているが、それで良いのかということである
- ・13頁の図、市野谷はあるのか、正確であるのならばメジャーをいれ

たほうが良い

(小川会長)

- ・ 頁を追いながら指摘いただきたい

(相原委員)

- ・ 2 頁、葛飾の「かつ」の字はどうか、統一するのが良い
- ・ 2 頁、概容の「容」は「要」
- ・ 3 頁、関八州の並べ方はどうか

(下津谷委員)

- ・ 特別に並べ方はないのではないかと
- ・ 2 頁、出だしの箇所「7 世紀に入ると」は不用
- ・ 2 頁、「わずかな情報」は記述する

(小川会長)

- ・ 村名しか分からないという意味か

(廣瀬臨時職員)

- ・ 村名であっても、詳しく分からないという意味である

(小川会長)

- ・ 3 頁、国絵図、村絵図を掲載する予定は

(廣瀬臨時職員)

- ・ 頁数の関係で、現在は考えていない

(相原委員)

- ・ 4 頁図、向小金新田は当初は旗本領だが、元禄期から幕府領になる、そういう場合の地図化はどうか

(小川会長)

- ・ 明治初年とか時期で区切るしかない、できれば文久とか天保が良い



(相原委員)

- ・ 明治初年だと向小金新田は幕府領である

(廣瀬臨時職員)

- ・ 旧高旧領では下総は不明だったかと思う

(相原委員)

- ・ 図が正確であれば、メジャーを入れること

(小川会長)

- ・ 昭和時代に作ったものであり、模式図のようなもので、正確にメジャーを入れるのは無理である

(相原委員)

- ・ 6 頁下、向小金新田は元和頃とあるが、資料は何を使ったか

(廣瀬臨時職員)

- ・ 市史かなにかから引用したもので、新たな資料を使ったわけではない

(相原委員)

- ・ 村の墓地にある高橋家一石五輪塔に 1 6 2 3 年の記年があるが、それをもって村の成立として良いか問題がある
- ・ この一石五輪塔は親村から持ってきた可能性があり、水戸街道との関わりもあり検討願いたい

(小川館長)

- ・ 6 頁上、「町名施行」の表記は「字区域及び字名称の変更」が正しい

(下津谷委員)

- ・ 9 頁図、字が小さくて読めない

(廣瀬臨時職員)

- ・大きくなるよう作図する予定

(小川会長)

- ・不用と思う、その分、次の文章をしっかりと書いて欲しい
- ・内川回しもあるが、水戸街道、布施と流山間を結ぶ道があり、商品経済の発達は道にも関わっているので、道を取り上げることによって流山河岸・加村河岸の発展も理解でき、そういった書き換えはどうか提案したい

(相原委員)

- ・10頁、利根川東遷については東遷ではないという見解がある
- ・栗原良輔の意見に基づいたと思うが、現在は河川研究者の間では明確に東遷とは書かない方向にある

(小川会長)

- ・江戸川開削の時期についても2説ある
- ・野田の猪俣さんの説が最新であり、支持されている
- ・あまり細かくふれる必要はなく、むしろ大幅に圧縮して、河岸との関係を記述して欲しい
- ・コラムにあるが、船との関係、陸送との関係にふれると良い

(相原委員)

- ・8頁上、波崎は神栖市である
- ・東遷論を採ると8頁下のような文章になるが、利根川の改修は舟運だけで、あとは論理的でない

(山田委員)

- ・11頁下、「幕府に認められました」とあるが、何が認められたか不明

(小川会長)

- ・流山市史、柏、野田の資料を使って充実されたい

(相原委員)

・ 14 頁下、「昭和 30 年代に消滅」とあるが、流山についてか全体的にか

(廣瀬臨時職員)

・ 全体的に舟運が昭和 30 年代までという意味で記述した

(小川会長)

・ 博物館研究報告書の中に、中村さんが舟運について書いているが、それを参考にして欲しい

・ 利根運河は昭和 10 年代で終わる

・ 不明なら、年代を削除すれば良い

(相原委員)

・ 15 頁上、延喜式 (729) はおかしい、900 年代

・ 「古代の法令細則集」の「古代」は「平安前期」が良い

(相原委員)

・ 16 頁上、オランダ観音「牧から飛び出して死んだ馬」という説の他に、「病気で死んだ馬」の説がある、どちらをとるか一応確認して欲しい

(大出委員)

・ 16 頁下、(現鴨川市) とあるが、初出に入れられたい

(相原委員)

・ 17 頁上、「清りゅう院」の読みは「せいりゅういん」か「せいりょういんか」

(廣瀬臨時職員)

・ 住職に確認したところ、「せいりょういん」である

(相原委員)

・ 住職は不在で今は野田の住職がみていると思うが、地元では「せいりゅういん」である

- ・ 住職をとるか地元をとるか

(小川会長)

- ・ 寺社の読みはルビがない
- ・ ルビをふらないほうが良いのでは
- ・ ルビは統一して欲しい

(廣瀬臨時職員)

- ・ お教えいただきたいが、「鉄砲」は石扁か火扁のどちらが良いか

(小川会長)

- ・ 18頁下、御林の記述であるが、雑木林の特徴がある
- ・ 皮膚病が多かったので、馬に日光をあてる必要があった、具体的に少し肉づけを

(山田委員)

- ・ 20頁上、表が空欄になっているのは何故か

(廣瀬臨時職員)

- ・ 資料がなかったためである

(小川会長)

- ・ ゼロとか横棒で表示をすること

(大出委員)

- ・ 正しいかもしれないが、面白くない

(小川会長)

- ・ 平坦すぎるので、もう少し組み換えると良い、牧や鷹狩についての記述は経験から苦勞するが、地元に残された資料を使うこと

(相原委員)

- ・ 23頁写真、解説を加えたほうが良い、綿貫さんの所在場所、土手が

平面的

(下津谷委員)

- ・このままだと平坦なので、略図のほうが良いか

(相原委員)

- ・22頁上、(柏二小辺)は柏二小そのものなので、削除したほうが良い

(小川会長)

- ・捕込のルビは「とっこめ」か「とりこめ」か、「とっこめ」が多い

(相原委員)

- ・22頁上、勢子の説明で「農民」か「百姓」か
- ・用語の統一が必要

(大出委員)

- ・百姓とかの言葉は苦情がある、歴史家もさしさわりのない言葉を最近を使う
- ・当時の言葉で歴史を書くか、現代の言葉で歴史を書くか

(相原委員)

- ・23頁下、人足はどうか

(大出委員)

- ・そこまで気が付いていないので、人足は問題になっていない
- ・無理はしないほうが良い

(相原委員)

- ・ここでは農民と決めればよい

(小川会長)

- ・町場はどうするか、庶民で良いか

(大出委員)

- ・その言葉のままで良い

(小川会長)

- ・私は庶民で良いかと

(相原委員)

- ・商人ではなくて庶民ね

(下津谷委員)

- ・24頁1行目、野馬の六方野とあるが特定できるのか

(廣瀬臨時職員)

- ・六方野は千葉市寄りの地域と認識している

(下津谷委員)

- ・それは地名か

(廣瀬臨時職員)

- ・六方野としか出ていない

(小川会長)

- ・削除したほうが良い

(山田委員)

- ・24頁、一頭とあるが統一したほうが良い
- ・表の中の文字は読めないものが多いので、ルビが必要ではないか
- ・雉子、貉、狸など

(小川会長)

- ・25頁上の写真、提供者の山田さんはどこの人か

(廣瀬臨時職員)

- ・鎌ヶ谷の人かと思う

(相原委員)

- ・ 25 頁上、「御立場」は「おたつば」か「おたてば」か
- ・ 25 頁下、図は原寸か拡大か、メジャーを入れる

(小川会長)

- ・ 27 頁、御鷹場は量的に、もっと少なくても良いのでは

(山田委員)

- ・ 26 頁、コラムの文頭には「長崎」とあるが、市内とか長崎地域としたほうが良い

(小川会長)

- ・ 30 頁下、思井村の場合、という見出しは具体的でとても良い

(山田委員)

- ・ 30 頁上、案山子はルビが必要では

(小川会長)(大出委員)

- ・ ルビについては通して見直す必要がある

(相原委員)

- ・ 32 頁、向小金新田に浅川氏という郷鳥見がいるが、検討して欲しい
- ・ 松戸市史資料編 1 にあるので確認をすること

(大出委員)

- ・ 揃わずは俗字であり、校正が必要

(相原委員)(村田委員)

- ・ 34 頁図、説明、地名が並んでいるが、市内と市外が分かるように工夫すること
- ・ ルビは無理か、栗沢は栗ヶ沢が正しい

(小川会長)

- ・ 36 頁下、図は何を入れるのか

(廣瀬臨時職員)

- ・ まだ確認していないが、本多稲荷神社を入れる予定

(小川会長)

- ・ 布施村には現在の所在が書いてないが、現柏市など入れる

(大出委員)

- ・ 39 頁上、4 月 3 日と月日を特定して記述しているので、現在の 4 月 25 日と入れれば、気候が分かりやすい

(相原委員)

- ・ 大久保大和は「改名」が良いか

(大出委員)

- ・ 大久保大和と「称した」が良い

(小川委員)

- ・ 39 頁下、図は見えないので、拡大するか文字を起こすこと

(相原委員)

- ・ 39 頁上、甲府市は甲州市が正しい
- ・ 39 頁下、図の説明、「大久保大和」(近藤勇)、「内藤隼人」(土方歳三)と入れたほうが良い

(大出委員)

- ・ 40 頁下、「無銭飲食・喧嘩・押借り」とあるが、新選組は悪者のイメージを植え付ける、不要ではないか

(相原委員)



- ・ 40 頁上、「調べていた」は「整っていた」が良い

(大出委員)

- ・ 40 頁、写真は「北島秀朝事蹟」はこのまま文字が残るのか
- ・ 写真を入れるより、事蹟を普通の文章に直して、本文中に入れたほうが良い

(大出委員)

- ・ 42 頁、武術英名録は興味ある人には面白いが、興味のない人には全く面白くない、これ程スペースは必要ない
- ・ 頁数は決まっているのか

(川根主任学芸員)

- ・ 1 章 30 頁という目安はある

(小川会長)

- ・ 流山では一茶とみりんをもう少し充実させる必要がある
- ・ 新選組、陸送の課題も充実させて欲しい

(川根主任学芸員)

- ・ 一茶とみりんについて、もう少し充実して欲しいという御指摘があったが、一茶とみりんについては第 5 章で取り上げている

(小川会長)

以上をもちまして、平成 25 年度第 1 回流山市史編さん審議会を終了といたします。

以上

(閉会 午後 4 時)